



水辺の環境を見てみよう



私たちは、毎日の生活の中でちょっとした心がけや工夫をすることで、環境にやさしい暮らしをすることができます。私たちの都合で自然をこわしたり、よごしたりしないようにすることが大切です。

■生き物のすみか「ヨシ群落」(7-8 ヨシ)

びわ湖の水辺に生えている右の細長い植物を、「ヨシ」といいます。このヨシが集まっている「ヨシ群落」は、鳥や魚たちがえさ場やすみかとして利用しており、たくさんの生き物たちにとって大切な場所です。

また、冬場には枯れたヨシを刈り取る「ヨシ刈り」を行います。古いヨシを刈ることで、春に新しい芽が育つ手助けとなるのです。



ヨシ刈り▶



■侵略的外来水生植物 (7-11 外来生物)

一見きれいな右の植物は、「オオバナミズキンバイ」という侵略的外来水生植物です。この植物は繁殖力が強く、水面の広い範囲をおおってしまうことから、他の植物の生育を邪魔したり、船が航行する障害になったりと、様々な被害の原因となります。

また、茎や葉の断片からでも再生するため、機械を使った大がかりな駆除に加えて、人の手による丁寧な駆除作業が不可欠です。現在も、地域のNPOや学生ボランティア等のたくさんの団体と協力しながら、駆除活動を行っています。



オオバナミズキンバイ



駆除の様子

侵略的外来種

外来種の中でも、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるもの。

▶びわ湖のごみ (4-3 琵琶湖のごみ)

県内でポイ捨てされたり、知らない間に飛んでいってしまったごみは、雨や風で河川に入り、びわ湖に流れ込んでしまいます。流れ込んだごみは、湖岸や湖底にたまり、生き物たちを苦しめることもあります。

「誰かが拾うから」という甘い気持ちで捨てないで、一人ひとりがごみを捨てないように、大切なびわ湖を守る行動を心がけましょう。



びわ湖岸に漂着したごみ



水源の森を守ろう



びわ湖と森は川でつながっていて、びわ湖を守るためには森を守る必要があります。大切なのは、森を整備し、そこから生み出される恵みをうまく活用すること。私たちの生活とびわ湖を支えてくれる森林を守るため、私たちにもできることはたくさんあります。

■豊かな森林を未来へ引き継ごう！ (4-13 森林・林業)

今、滋賀では、適切に管理されず、所有者や境界が分からない森林が多くあります。一方で、森林はびわ湖の水源で、多様な生き物のすみかであり、山崩れを防ぐだけでなく、木材やレクリエーションの場など、様々な恵みを生み出す大切な場所です。

都市部に暮らしていても、木でできた食器を取り入れてみたり、休日にハイキングに出かけてみたりするなど、森林に関わる方法はいろいろあります。まずは興味をもったことや楽しそう！と思ったことから始めてみましょう。



人が手入れをしている健康な森林



木材を活用した建物



森林ウォーキング

▶木を使って、森林を守ろう (4-14 林業の成長産業化)

びわ湖の水源となる森は、天然林が6割、人工林が4割となっています。人工林とは、木材を手に入れるために人が木を植えて育てている、「使うための森林」ですが、木材の利用が進んでいないのが現状です。

人工林を良い状態に保つためには、きちんと間伐を行いつつ、育てば伐って使って、また新たな木を植えることが大切です。木を使うことと森を守ることは一見矛盾しているように思えますが、森林を守るための大切なサイクルの一部なのです。

